

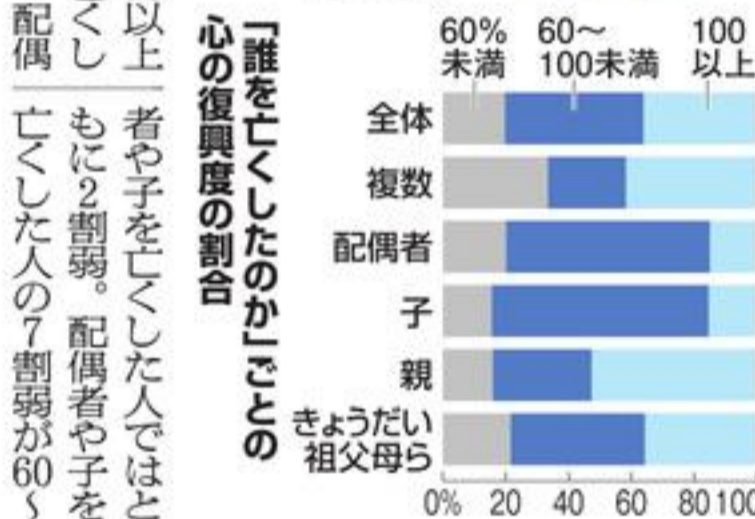
# 心の復興度 亡き人と歩んだ軌跡

朝日新聞社と関西学院大学人間福祉学部  
による共同意識調査から

阪神大震災の遺族調査では、震災直前を100%として気持ちの変化を縦軸、時間経過を横軸とした「復興曲線」を描いてもらう手法で、遺族自身が考える「心の復興度」を尋ねた。

## 阪神大震災 20年 遺族調査から

調査時点（昨年9月）で6割以上の人が100%未満だった一方、4割弱が震災前以上になったとした。



100%未満だった。関学大の坂口幸弘教授（悲嘆学）は「心の復興度やその過程は個別的、主観的なもの。亡き人への思いが続く限り完全な心の復興もないと捉える人も、以前の自分より成長したという意味で100%以上と答えた人もいただろう」とみる。

「家族が亡くなり、自分が助かったことへの後ろめたさを感じたことがあるか」との質問に「ない」と答えた人では、心の復興度が100%以上の人が6割強いた。「今も感じていない」とした人では100%以上の人は1割弱だった。

関学大の池埜聡教授（トラウマ学）は「『今も感じている』という人も、復興曲線は揺れ動きつつ上昇を描く人が多かった。後ろめたさが心の復興を妨げているというよりは、自分の生を家族の死と関連づけながら歩まれた人生の軌跡を表しているのではないか」と話す。

〓おわり